

第 188 回浜田市教育委員会定例会議事録

日 時：令和 3 年 1 月 28 日（木） 13：30～15：33

場 所：浜田市旭支所 3 階中会議室

出席者：石本教育長 宇津委員 金本委員 花田委員 杉野本委員

事務局 河上部長 草刈課長 龍河副参事（欠席） 市原課長

鳥居室長 村木課長 濱見課長

書記：日ノ原係長 皆田主任主事

新型コロナウイルス感染防止に伴う出席者の調整のため、議題、報告資料のなかった猪木迫参事、村瀧副参事、平岡室長、佐々尾分室長、細川分室長、三浦分室長、小松分室長は、欠席。

議事

1 教育長報告

2 議題

- (1) 令和 3 年度教育方針について（資料 1）
- (2) 教育委員会委員と社会教育委員の意見交換について（資料 2）

3 部長・課長等報告事項

4 その他

- (1) その他

1 教育長報告

石本教育長

1 月が終わろうとしているが、今年最初の定例会である。本年も委員方には色々のご指導、ご支援いただききたいと思う。よろしく願います。

本日は定例会が終わった後に旭図書館の視察を行い、その後教育委員会に戻って教育委員会協議会を行うため、この後の定例会は少しペースを上げて進めていきたいと思う。ご協力をよろしく願います。

それでは資料に基づき、この 1 か月間を振り返る。

- ① 12 月 23 日（水）第 187 回浜田市教育委員会定例会（2 階会議室）

前回の定例会を 12 月 23 日に開催した。

- ② 12 月 25 日（金）石正美術館平坂常弘館長離任式（石正美術館）
教育文化振興事業団で執り行われ、私も離任式に参加した。

平坂館長は、石正美術館が平成13年4月に開館する1年前の平成12年4月から館長として準備から関わっていただいた。20年以上、館長として石正美術館の礎を築かれた。平坂館長は、学生の頃から石本先生に手紙等を出され、郷土の先輩ということで色々ご指導を受けたご縁もあって、館長になられたと聞いている。長い間、大変お世話になったが、体調を崩されて急遽12月末でご退任となった。

新しい館長は、今、京都に住んでおられる石本先生の教え子にあたる方で、西久松先生である。元大学の先生で、後任の館長になられる。ただ、常時こちらにいるということは難しいため、年に数回、ポイントで来ていただくことになっている。石正美術館の河上課長が、副館長という立場で通常管理運営については責任を持って行う体制に変わる。

③ 1月5日（火）令和2年度第3回三市三町教育長会（浜田合庁）

1月5日、12日、19日、26日の毎週火曜日に会議が開かれた。教職員の年度末の異動に向けて、調整をするための会議を毎週開いている。

今年度の教職員の関係であるが、年度末で退職をされる浜田管内の校長先生は13名の予定である。また、教頭先生は3名退職される予定である。その他、教職員、栄養教諭、事務職員を合わせると現在、浜田管内で55名の方が退職、辞職される予定である。それに対して新規採用の予定は20数名であり、差し引きして足りない部分については、再任用の先生や講師の先生を充てると聞いている。浜田の場合は、松江や出雲管内から浜田へ希望して来られる先生もいるため、そういった先生方で埋めていくと教育事務所から聞いている。

④ 1月18日（月）美川連合自治会陳情（庁議室）

学校統合に関して今までも陳情が出ているが、付け加えて「新しい地域拠点としての学校整備計画について」といったタイトルでの要望である。これについては、後ほど教育総務課長から陳情書について説明があるため詳しいことは申し上げないが、地域の拠点として学校を整備してほしいという追加の要望があった。

⑤ 1月20日（水）県学力育成推進プラン策定委員会（松江市）

私は策定委員であり、今回で4回目の会議であった。基本的なプランの3本柱というところだけお話しすると、1つ目が「授

業の質の充実」、2 つ目が「家庭学習の充実」である。浜田市教育委員会の中でも課題として取り組んでいる大きな項目であるが、県の学力育成についても基本的な 3 本柱のうちの 2 本として取り組むということが、大まかに決まっている。3 つ目は、「地域に関する学習を充実させる」ということが挙げられた。実は高校では地域課題解決学習に取り組んでおり、その流れを小学校や中学校でも取り組んでいこうということである。ふるさと教育として、地域との連携や地域のことを学び郷土愛を育てる取組は当然行われているが、さらに加えて地域課題をみんなで考える、将来のまちづくりを考えるという取組を行う中で、色々な深い学びに結び付けて学力を向上させる取組を柱として、策定プランが検討されている。今年度 3 月末には最終的な県学力育成推進プランが出来上がると聞いている。

⑥ 1 月 21 日 (木) 教職員人事評価システム管理職面接・1 日目 (教育長室)

校長先生と教頭先生にお越しいただき、4 月当初の目標に対しての取組結果、状況について、面接を行いながら確認する会議を 21 日、25 日、28 日に行った。明日 29 日に 4 日目を行い、全小中学校の校長、教頭先生の面接が終わる予定である。

⑦ 1 月 26 日 (火) 令和 3 年 1 月市議会臨時会議 (議場)

新型コロナウイルス感染症対策の関係の補正予算を議決してもらうための会議であった。今回は特に教育委員会から予算を提案したものはなかった。

⑧ 1 月 27 日 (水) 市議会総務文教委員会 (全員協議会室)

今、教育委員会で行っている現状等を説明させていただいている。

1 か月間の報告は以上である。

今のところで、質問等はあるか。

質疑応答

宇津委員

美川連合自治会からの統合に関する要望について、後ほど詳しく説明があると聞いたが、以前から自治会長が主張している小中学校を併せた 1 校の建設への強い要望だが、中々理解していただけないという経緯があったと思う。今回もその様なスタンスで臨んで来られたのか、それはそれとして、もう 1 つステップを踏んだ第四中学校の統合問題については受け入れるが、小学校を建て

石本教育長

るのであればこうだといったスタンスで臨まれたのか。その辺はどうだったのか。後で説明があると思うが。

スタンスとしては基本的には変わっていない。今までの要望に対して、これは追加の要望である、という言い方をされた。強硬に小中連携した校舎を建てるといった話をされていたが、それについては反対意見もあるということが段々分かってきたと言われていた。そういう状況なので少しトーンダウンしたところはあるかもしれないが、基本的には変わっていない。色々な話がある度に、やはり中学校は一定規模の生徒数が必要であると何回も繰り返し話しているため、何となくそれは難しいのかなという気持ちは持っておられるかもしれない。3月議会で統合計画を議会に示すため、それまでのところでもう1度地元の方と話をする。

宇津委員

市長からのコメントの中で見た気がする。

石本教育長

新聞にコメントが掲載されていた。

宇津委員

その時に複合的な施設として考えていきたいというようなコメントで載っていた気がする。

石本教育長

学校単体ではなく、放課後児童クラブであったり、体育館を建設するにしても避難所としての機能を兼ねたものであったり、そういう複合的な施設、まちづくりの拠点となりうるような施設として建設したいと市長は言われていた。

宇津委員

承知した。

石本教育長

要望の時に、いらないことだったかもしれないが、中学校はやはり今までどおり一定の規模がある方がよいという考え方であるということをつけ加えておいた。

その他はよろしいか。

各委員

特になし。

2 議題

(1) 令和3年度教育方針について（資料1）

石本教育長

事前に送付している教育方針（案）について、目をとおしていただいていると思うが、実はその後、施政方針の絡みもあって多少修正している。修正したものを本日お手元に用意しているが、以前お渡ししたものに色々とチェックを入れていただいていると思う。面倒ではあるが、両方を見比べながらご意見をいただければと思う。よろしく願います。

1ページから3ページまでは、いわゆるリード文、前段の部分で

ある。3 ページの学校教育の前の 2 ページ半のところまでで、ご意見があればお願いします。

宇津委員 3 ページの人権のところの記述に併せて、いじめ問題ということは避けて通れないところではないかという気がするので、いじめの根絶や撲滅にあたっての考えを記しておく方がいいと思う。

石本教育長 確かに大事なことである。学校教育のところに問題行動等についての記述はなかったか。

宇津委員 学校教育のところには、不登校傾向及び不登校児童生徒への対応についてしか記述がない。

石本教育長 承知した。3 ページの人権についてのところに、いじめの根絶、撲滅といった意味合いのことについて付け加えるということで、事務局で整理させていただく。ありがとうございます。

杉野本委員 最初の新型コロナウイルスのところで、「いまだ終息の兆しが見えませんが」とあり、私もこの「終息」という字を使うが、新聞や報道等では収まる束と書いて「収束」とある。完全に菌が消えてしまうのなら「終息」だが。

石本教育長 承知した。調べておく。確かに新聞報道等では収束と書かれていた。

1 ページの下段のところに少人数学級編制について、国と県が見直しをするということを取り上げて書いているが、この部分を読まれて事情が分からない人は理解できるか心配をしている。中々いい書きぶりがなくて、この様な書きぶりになっているが、これで分かるだろうか。

花田委員 分からないことはないが、下の 4 行を 2 つに分けた方が分かりやすい。

石本教育長 「県も 35 人に据え置きになった。」とここの部分で区切り、「そうした結果、きめ細やかな指導の実施」と繋げて 2 文に分けることで検討する。

花田委員 その方が誰でも分かる文章になると思う。

石本教育長 読んだときに、聞いている人が分かるか気になっていた。やはり、あまり長い文だと良くない。短文の方が聞いている人が分かりやすい。ありがとうございます。

花田委員 2 ページの 4 行目に「意見をお聞きしながら」とあるが、6 行目のところでは「ご意見をいただく中で」とある。

石本教育長 同じことであるが、単に同じ表現を使いたくなかった。

花田委員 「聞く」の漢字が違う。

石本教育長	市長の施政方針と合わせて「聞く」で統一している。「聴く」でもどちらも意味は通じるが。
杉野本委員	「聞く」を丁寧語にするなら「お」を付けていいと思うが。意見をいただくなり、伺うなりがよいかもかもしれない。
花田委員	「聞く」という言い方よりそちらの方がよい。
石本教育長	「ご意見をお伺いしながら」はどうか。「お伺いしながら」の方が一般的かもしれない。「ご意見をいただく中で」はこのままでよいか。
各委員	よい。
石本教育長	ありがとうございます。
花田委員	「教育関係者各層の意見をお伺いしながら」というのは、「ご意見」ではないか。
石本教育長	上は意見で下はご意見である。「ご意見をお伺い」というのは非常に丁寧な言い方である。
杉野本委員	ご意見を伺うのに、「お」はいらないのでは。
河上部長	「お」はいらないと思う。自分が伺うのに敬語は使わない。「ご意見を伺いながら」であると思う。
石本教育長	承知した。「ご意見を伺いながら」とする。ありがとうございました。
	続いて3ページ中ほどから6ページ中ほどまで、学校教育についてである。学校教育のところでお気づきの点があればご指摘をお願いします。
杉野本委員	3ページの「カリキュラム・マネジメント」についてであるが、各学校において、教育活動の実践・評価・検証を行い、改善していく「カリキュラム・マネジメント」と続いている。「カリキュラム・マネジメント」とは、国が言っているのは、PDCAサイクル、つまり実践、評価、検証、改善であるが、「カリキュラム・マネジメント」には3つの側面があって、そのうちの1つがPDCAサイクルになる。それから教科横断的な視点を持った教育活動を行うという側面もあったりする。
日ノ原係長	おっしゃるとおり3つある。構成の中でその3つを入れると長くなったため、1つの側面を選んだ経緯がある。どういったかたちがよいか。
杉野本委員	捉え方として、浜田市は3つの側面の中で特にここを大事にするという意図があるのであれば、これでよいと思う。全部を網羅するのは実際には中々大変である。

石本教育長 杉野本委員	カリキュラム・マネジメントのもう1つの面は。人材や資源を外部から集めて活用することである。調べてみたら、カリキュラム・マネジメントは、計画的かつ組織的に編成、実施、評価し、教育の質を向上することと記載がある。
石本教育長	多分、鳥居室長が考えたことの中に3つのことが全て書かれていたが、長くなったのだろう。
鳥居室長	「各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進」としたら「カリキュラム・マネジメント」の意味が分かりにくいので、文言を加えたら長くなった。中々難しいところである。
石本教育長 鳥居室長	そうであると思う。 もう1つは教育活動のところで教科横断であるとか、人材育成を含んでいると解釈すれば、教育活動という言葉で含むこともできる。
石本教育長	承知した。杉野本委員からいただいた意見を基に、再検討したいと思う。
金本委員	聞く人が素人の方であっても学校教育に対して分かる様な表現にしてほしい。
石本教育長	「学校教育におけるカリキュラム・マネジメント」だけでは聞いている人も分からないと思う。何らかの説明を付けたいが、正しく文部科学省が言われることを入れたら非常に長くなるため、それを短くした様な表現でカリキュラム・マネジメントを説明したい。鳥居室長、もう一度考えていただければと思う。よろしく願います。
鳥居室長 宇津委員	承知した。 学校における児童生徒の学力向上は筆頭にくると思うが、健康だとか、体力づくりという面も大事な要素である。その時に、学校給食という言葉が今回出てきていない。ここは地味な様で大いに影響するという気がしている。学校給食について触れることはできないのか。
石本教育長	確かに、学校給食、食育と絡む体力づくりや健康づくりに関する項目として、3行くらい増えても問題はないか。
日ノ原係長 石本教育長	問題ない。 入れるとすれば、学力向上の後の4ページ、特別支援教育の前あたりはどうか。それこそ10年前くらいまでは「知徳体」が必ず出てきて、この3つのバランスが大事であるという文言が必ずあった気がする。体力に関する事、健康、食育を含めて出てきて

いた。

花田委員 あえて今の時期だからこそ必要だと思う。免疫力を上げていくとか、遊べない状況がある中でそこをやっていく、守っていくぞというところを出していくと良いと思う。

石本教育長 コロナ対策にも絡めて、その辺の書きぶりは事務局で検討する。4ページの真ん中あたりに追加をしていきたいと思う。ありがとうございました。

杉野本委員 6ページの4行目の「学校トイレの洋式化につきましては、最終的には設置率75%程度まで引き上げることを目標」とあるが、規定があつて協議をされて75%程度までと決まったのか。

石本教育長 今までも75%を目標としてきている。

杉野本委員 100%を目指さないのはなぜだろうかと疑問に思った。

石本教育長 和式でないと困る児童生徒がいるのではないかと思う。ほとんどが洋式化になってきているが。

花田委員 設置率だが、設置されている学校と設置されていない学校があるということか。

金本委員 学校内の洋式の設置率が75%ではないか。

石本教育長 そうである。4つトイレがあつたら3つが洋式で1つが和式であるという割合である。それはもう古い考えなのか。

日ノ原係長 今は各階に洋式を1つ設置している。

石本教育長 各階に1つであれば、まだ3分1ぐらいのところである。

宇津委員 「最終的には」とあるから、最後の目標だと思うのではないか。

石本教育長 「最終的には」を削ればよいか。

宇津委員 削れば良いと思う。

石本教育長 では、「最終的には」を削ることにする。

花田委員 和式しかだめな子もいる。洋式では吸い込まれそうで座れないとか。

杉野本委員 あの姿勢が良いとか。

金本委員 5ページの真ん中あたりのスクールサポートスタッフの配置であるが、数値的には何人とかいう記載はないのか。

石本教育長 本当は全ての学校に配置すると助かると思うが、今は5校に配置していると思う。

市原課長 現在は6校に配置している。来年度予算も6名で要求している。

石本教育長 確かに市町村によっては、全ての学校に1名配置しているところもある。昨年補正の部分は国からの補助で全額まかなわれたが、今年度以降は補助がないため、市町村の負担が増える。その

ため、中々全ての学校に配置することが難しくなる。それから人材を25校全員揃えようと思うと人材も中々いない。今の6校に配置をするだけでも人材を探すのが大変だった。人数を書くのは控えたい。

5ページの下から6行目の「部活動の在り方」について、文部科学省から休日の部活動については、段階的な地域移行にする方針がでていますが、浜田市で考えた時に、受け皿になる様な組織がないのが現状であると思う。敢えて赤字で書いているが、「浜田市で可能な体制整備について、」と入れている。やはり都会とは違うので、文部科学省は一律的に方針を出されるが田舎では中々体制が取りづらく難しい面がある。そのため、赤字で付け加えさせていただいている。

学校教育のところはよろしいか。

各委員

はい。

石本教育長

何点か追加やご指摘いただいたところについては、事務局で検討させていただく。

続いて6ページから7ページの真ん中あたりまでが社会教育についてである。ご意見等あればお願いします。

杉野本委員

6ページの下から3行目、「様々な学びや体験活動に取り組んでおりますが、」とあるが、「が」がくると逆説になるので、「～おります。」でいいのではないか。

金本委員

1文が長い。

石本教育長

「が」で繋がなくても「～おります。」として、「今後は更に」とする。文を半分にした方が分かりやすい。

花田委員

その続きの「今後は更に、浜田の貴重な地域資源であります海・山・川」とあるが、海・山・川に対してなので「地域資源である」でいいのではないか。丁寧でなくてもよいのでは。

石本教育長

確かに「今後は更に、浜田の貴重な地域資源である海・山・川」の方が聞きやすい。

社会教育についてはよろしいか。

各委員

はい。

石本教育長

続いてスポーツ振興のところに入りたいと思う。

宇津委員

1つ確認であるが、浜田市体育協会は合併以降15年になるか。

石本教育長

そうである。新しい組織としてである。合併を入れたほうがよいか。今まで体育協会が5周年記念イベントや10周年記念イベントを開催してきたが、それは何もなくて設立5周年とやっておら

れた気がする。後ほど調べてみる。

8 ページの子ども読書活動推進計画について、県の計画はどうなっているか。

村木課長
石本教育長

県の計画は既に終わって、第3次になっていると聞いている。

教育方針を立ち上げるのに、県の計画と連動するといった話があって、連動するのであれば来年度教育振興計画を作るため、1年ずらして1年遅く作らなければ実質的にできないのではと話があった。これはどちらかという県計画を受けて作るのか。

村木課長

そうである。仮称であるが、「図書館推進計画」を総合振興計画の後に作る。それは次の年と考えている。

石本教育長
村木課長

それは作ることになっているのか。

図書館協議会からは、その様に意見をもらっている。

石本教育長
村木課長

図書館協議会が作ってほしいということか。

そうである。

石本教育長
村木課長

今回はそれは載せる必要はないということによいか。

よい。

石本教育長

続いて8ページの下のところから10ページのところまでが芸術文化の振興、それから文化財の調査及び保存・活用の2つの項目である。ご意見等あればお願いします。

金本委員

10ページの1行目、「皆さんの意見をお聞きしながら」とあるが、先ほどと同様に「皆さんのご意見を伺いながら」に。

石本教育長

承知した。2行目の基本計画については案を入れなくてもいいか。正確には案だが、案も含めて計画という言い方か。今までの議会での答弁の中では、計画案とは言っていないか。

濱見課長
石本教育長

言っていない。専門検討委員会の作るものは当然案であるが。

それを浜田市として計画していくということであるか。

濱見課長
石本教育長

そうである。

専門検討委員会を作るものは案だが、そうではなくて浜田市として基本計画を策定していくということによいか。

濱見課長
石本教育長

そうである。

上から5行目のところで「案内板は浜田の歴史を次世代に伝えるために効果が大きいと考えており、」とあるが、「効果が大きい」という表現で今は落ち着いているが、色々こここの部分を検討するが中々良い表現がない。

他の表現は何があったか。

日ノ原係長

意義がある、大変意義がある、であった。

石本教育長 日ノ原係長 宇津委員 石本教育長	ピンとこない。 有効であるとも出たが、どれもしっくりこなかった。 浜田の歴史を次世代に伝えるための「有効な手段」はどうか。 いい案である。取り敢えず、「次世代に伝えるための有効な手段」とする。これは市長にみてもらう時に修正されるのだろうか。
日ノ原係長 石本教育長	市長は月曜日の庁議でみられる。 ただ、本日意見を聞いて修正をしたら、明日中に市長に渡して土日で目をとおしていただきたいと伝え、月曜日の庁議を迎えないといけない。
河上部長 石本教育長	市長の直しは月曜日に反映させるのか。 それは無理である。月曜日の庁議で言われたら直す。 10 ページのところまではよろしいか。
各委員 日ノ原係長	はい。 今後の流れとしては、本日、委員方からご意見いただいたところを修正して明日、委員方に郵送させていただく。委員方におかれましては、2月1日（月）17時までのところで目をとおしていただいて、修正等のご意見がありましたら私までご連絡いただければと思う。並行して、内部としては2月1日（月）の庁議に出す。もし庁議で修正がかかれば同時並行で直していく。また、最終的なものは委員方に送付させていただきたいと思う。議会には2月2日（火）に提出である。
石本教育長 日ノ原係長	議会には2月2日の夕方には提出しなければならない。 本当はそうである。市長から、施政方針のときは庁議が終わった後すぐにでも出してあげてという話もあったらしいが、教育委員会は教育長から本日が定例会であるという話をされて、全員協議会が2月5日であるため、規定どおり3日前の2月2日には議会に提出する。
石本教育長	議会が2月24日から始まるため、正式な教育方針は1週間前の2月17日に提出をするが、2月5日の全員協議会でほとんど最初と同じであるが、これはあくまでも骨子であると注意書きをつけて事前に議員方にお渡しする。それをみて、教育方針に対する質問を議員方が考えられる。2月5日に骨子を出すのが、正式に提出する2月17日までに変更もできるか。
日ノ原係長 石本教育長	変更はできる。ただ、議員方は骨子を見ておられる状態である。 骨子を2月2日に議会に提出して、委員方にも送付をする。そこで委員方からご指摘があれば修正できるため、締切日等を決め

	ておきたい。2月17日に議員方に提出する分の締切はいつかまだ決まってないか。
日ノ原係長	基本的には2月17日の3日前である。2月14日が日曜日であるため、2月12日（金）までになるかと思う。
石本教育長	いずれにしても、修正したものを委員方に送付してご確認いただき、最終的にはまだ直せる。明日は17時までに投函しなければ土曜日中に届かないので注意するように。
日ノ原係長	承知した。明日、教育長は終日、管理職面接日であるため、修正後の確認をしていただくのは昼休みしか時間がないと思う。そのため、明日の10時ぐらいまでのところで部課長方には今日指摘のあったところの修正をしていただきたい。委員方には明日の午後2時には投函したいと思っている。
石本教育長	承知した。2月1日（月）17時までのところで修正後のご意見があれば日ノ原係長までご連絡をいただければと思う。よろしく願います。 それでは教育方針は以上である。

(2) 教育委員会委員と社会教育委員の意見交換について（資料2）

村木課長	毎年3月に行っている教育委員会委員と社会教育委員の意見交換会の日程である。今年度のこれまでの取組や今後の社会教育の推進等について意見交換することを目的とするものである。 主な内容としては、公民館のコミュニティセンター化について、また、今回の機構改革で社会教育課が市長部局に移ることで、今後の社会教育について意見交換をさせていただければと思っている。 実施希望日については、3月19日（金）北分庁舎で行いたいと考えている。参加者としては、社会教育委員13名を対象として考えている。
石本教育長	希望日が記載されているが、委員方の都合が悪ければ日程は変更可能か。
村木課長	可能である。調整を行う。
石本教育長	毎年行っている意見交換会であるが、今年度も実施をするということによろしいか。
各委員	はい。
石本教育長	開催日についてだが、3月19日（金）10時から12時であるが、ご都合はいかがか。

各委員	大丈夫である。
石本教育長	ありがとうございます。それでは希望日として提案のとおり、3月19日（金）10時から12時の時間帯で開催したいと思う。3月19日は午後から定例会になるか。
日ノ原係長	後ほど提案させていただくが、3月19日の午後から教育委員会定例会を開催させていただきたいと思っている。
石本教育長	承知した。日程については、3月19日でお願いする。 内容について、今の提案では公民館のコミュニティセンター化について、また、今後の社会教育についてということだが、特にこういったところを意見交換したいなどあるか。 基本的には毎年と同様に、今年1年間の取組を報告されて、次に意見交換ということで変わらないか。
村木課長	そのとおりである。
石本教育長	その時の資料を当日配布するのではなく、委員方に事前にお渡しして、目をとおしていただければと思う。
村木課長	承知した。
石本教育長	それでは社会教育委員との意見交換会について、この様なかたちで開催するという事によろしいか。
各委員	全会一致で承認

3 部長・課長等報告事項

河上部長	令和3年3月浜田市議会定例会議日程(案) (資料3) 3月議会は2月24日開会である。今回は、会派代表質問を含めて行われる。コロナ対策として、一般質問の時間も20分、委員会についても議題があるところだけ出席となり、少しコロナ対策を配慮した運営がされる予定となっている。3月17日が採決の日程となっている。以上である。
草刈課長	行事等予定表 (資料4) 教育委員会関係の1月28日から2月28日までの予定である。右から2つ目の教育委員の欄に丸を付けているところは、委員方へ出席いただきたいものである。下から3行目の協働のまちづくりオンライン市民集会については、案内をお手元に用意している。場所については、市役所4階講堂である。それから、2月19日は教育委員会定例会の予定である。

学校統合計画に係る陳情について（資料5）

1月18日に、美川連合自治会から市長及び教育長へ、学校統合計画に係る陳情が出された。「新しい地域拠点としての学校統合計画について」ということで、次のページに要望書を付けている。要望等の内容は表紙の裏に記載されており、2ページから始まり7つの段落に分かれているが、6段落目までは過去の経緯や状況、地元の思いが記載されている。要望の部分は1番最後の段落にあり、7段落目の下から3行目後半のところで、「変化を続ける生活様式、多様化した価値観の受け皿として新しい価値のある地域拠点としての、地域及び学校の整備を計画されることを、新たな要望としてお願い申し上げます。」とある。要望について追加の要望という様な言い方もあったが、新たな要望ということである。過去に幼稚園、小学校、中学校の一貫教育モデル校の要望、小中複合型校舎の建設の提案もあり、上書きして新たな要望という読み方もできるが、会長はスタンスを変えていないように感じた。

この陳情を受けて、当日の市長からの回答の内容は、地域で子どもを育てる取組や地域のそれぞれの活動については、感謝の意を申し上げたいと言っておられた。それから学校統合が地域を衰退させることがあってはならないという認識を示された。市長は、特に小学校については、子どもたちも教育のための施設であるだけでなく、学童保育や避難所の設置、地域の交流の場など、さまざまな機能を併せ持った施設であるべきという考えを示された。それを受けて、新たに建設する小学校は放課後児童クラブや災害時の避難所としての機能を併せ持った複合施設として整備する必要があるという考えである。

ただ、予算の制約があることから、今後、地域の方々の意見を伺いながら検討していくという様なかたちでの回答であった。あくまで小学校はという言い方であり、中学校については特に言及せず、教育長から中学校については難しいという内容の話がされた。以上が1月18日の要望に関するざっとした内容である。地元の会長、副会長と地元関係の市議会議員3人が来られていた。

令和3年1月7日からの大雪、低温による被害報告について（1月15日現在）（資料6）

年明けの1月7日から大雪、低温による被害について1月15日現在の防災安全課から提供された資料を基に作った資料である。警報等、被害等について、停電関係、交通事故、道路関係、農産物関係、水道関係の状況を載せている。

裏面をご覧ください、6番の学校施設関係のところ、1月11日(祝)午前中に上下水道部から連絡があり、金城地区の雲城地区、今福地区で給水制限(6割制限)を実施するということがあった。期間は1月11日(祝・月)14時から1月12日(火)11時まで、該当校として今福小学校、雲城小学校、金城中学校、金城給食センターが該当となった。

そのため、学校給食会とも協議をして、当日、給水制限が6割制限であり、水が全く出ない訳ではないため、給食調理用の予備水として0.6トンを用意すれば給食調理は可能であるという話になり、その旨を学校に連絡をした。それを受けて学校は11日の時点で、今福小学校は臨時休校、それ以外の雲城小学校、波佐小学校、金城中学校は通常授業を行うと決まった。

12日の午前7時に給水車で金城に水を持ってあがる予定にしていたが、12日の朝、金城中学校の給食センターから水が出ないと連絡があり、水が全く出ないということは調理ができないということで急遽給食を中止することになった。そのため、救給カレー及びカロリーメイトを通常授業を行う学校に配布した。併せて、給食調理用の予備水については、雲城小学校と金城中学校の生活水に振替えて学校に配送した。給食が実施できなかったため、下記に記載があるとおり、各学校はそれぞれの下校時間で下校している。以上が1月7日から大雪、低温による被害の影響である。

龍河副参事

(代理：日ノ原係長)

令和3年度公立幼稚園園児募集の結果について(資料7)

急遽、龍河副参事が欠席となったため、私から説明させていただく。今年度については、例年より1か月募集時期をずらして、1月8日から18日までの期間で令和3年度の幼稚園園児の募集を行っている。

上の段の表は、新規入園申込み児童数である。各園の上段のところ、令和3年度の申込み人数である。下段は、参考として令和2年度の申込み人数である。石見幼稚園が合計4名、長浜幼稚園が合計4名、美川幼稚園が合計3名、計11名の新規

市原課長

入園の申込みがあった。

下の表については、新規入園を受けて、現在の在園児を含めた来年度の4月1日の在籍見込み園児数である。石見幼稚園が20名、長浜幼稚園が14名、美川幼稚園が8名、計42名の予定である。

下段に米印で記載をしているが、園児数は保護者の転勤や入園の取下げにより変更となる場合があるということ、それから募集期間終了後も随時受入れを行うということで、今後若干変更があるかと思うが、現時点での数字である。

令和2年度小中学校修学旅行について（資料8）

小中学校の修学旅行の実施状況である。小学校については、全ての小学校で修学旅行が終わっている。ほとんどの学校が行き先を広島県から島根県東部、鳥取県方面に変更している。

中学校については、9校中1校、旭中学校が11月に九州方面で実施している。その他の学校については、日程のところをご覧いただき、来年度に実施予定の学校が3校あり、それ以外の学校については3月に実施する予定で進めている。ただ、新型コロナウイルスの状況によって再度日程の変更や場所の変更等が出てくる可能性があるが、今のところは資料のと通りの計画で進めている。

令和2年度卒業（園）式及び令和3年度入学（園）式日程（資料9）

先ほど教育長からも話があったが、新型コロナウイルスの状況が落ち着かないという状況、それから校長会でも申し合わせを行い、小中学校の卒業式及び入学式について、来賓は基本的には呼ばないことになった。保護者等の参加についても、学校の規模等に応じて人数制限等をかけながら、感染対策に十分配慮して、できるだけお越しいただきたいという意向であり、そういったところを見据えた対応となっている。教育委員会としても昨年と同様に、式には参加せず告辞での対応を考えているところである。昨日の議会の委員会で、議員の方々にも来賓の扱いについてはご案内しないと通知している。

児童生徒各種全国表彰等について（資料10）

コロナ禍の状況ではあるが、昨年、全国表彰を受賞された児童生徒が何人かおられて報告をさせていただいたが、今年度も5名の児童生徒が全国表彰を受賞され、資料に記載している。

1人目の旭中学校3年生の岡本さんは、「社会を明るくする運動」作文コンテストの中学生の部門で優秀賞を受賞された。先日、市長表敬に来られて新聞にも掲載されている。ご覧になられた方もおられると思うが、「おこっぺと」というタイトルで給食に出るパンを題材にした作文である。この受賞作品については、この作文を読むことはできないかと昨日、議員から質問があり、実は「更生保護」という機関紙の今月号に「社会を明るくする運動」の作文コンテストで県で1位を受賞した旭中学校2年生の堀さんの作文が掲載されている。堀さんの作品は県では1位であったが、全国に出したら岡本さんの作品の方がよかった。今月号には堀さんの、来月号には岡本さんの作品が掲載されるが、旭中学校の校長先生が2つの受賞作品が掲載された暁には、更生保護の機関紙に2つの作品が掲載されているということを旭中学校のホームページにアップして伝えていきたいということである。多くの方々に見ていただきたいと思っている。

2人目は第二中学校1年生の新留さんである。新留さんは、昨年、原井小学校6年生の時にも全国表彰を受けており、2年連続受賞で非常に頑張っておられる生徒である。

3人目は弥栄中学校2年生で「動物愛護」作文コンテストで2等賞受賞の横山さん、4人目は同じく弥栄中学校3年生の串崎さんが「SDGs 全国子どもポスターコンクール」でテーマ賞を受賞されている。

裏面をご覧ください、5人目の三階小学校6年生の堂原さんも2年連続で受賞の生徒である。「図書館を使った調べる学習コンクール」の作品を浜田市から全国に16作品を出品し、堂原さんが奨励賞を受賞している。

「第24回図書館を使った調べる学習コンクール」全国審査結果について(資料11)

全国審査結果の詳細として資料を付けている。また、図書館ではレプリカの展示を行いたいと考えており、多くの方々に見ていただきたいと思っている。

第9回(1月)市校長会資料(資料12)

校長会で校長先生方にお伝えした内容である。1番をご覧ください、小中連携教育目標項目を調査した結果についてである。前回の定例会でも報告をしているが、「メディア接触時間」の増加が止まらない。それから「家庭学習時間」についても、中学校は若干増えてはいるが、小学校はかなりの影響を受けて減っている大きな課題があると話をさせていただいた。その後、小中連携教育推進委員会や各ブロックの代表者会があり、色々と協議をした結果、一生懸命取り組もうということで、1ページの真ん中、四角の枠をご覧ください。二重丸で示しているが、見通しをもちながら家庭学習に取り組む力を付けることを本気で行う。今まで行っていた様な、メディア習慣やアウトメディア習慣やノーメディア習慣等の短期的な取組ではなく継続的に行う。理由についても、3つ挙げており、取組例についても提案を記載している。校長会でもこの方法について了解をいただいているが、一歩進めて自分で時間をコントロールする習慣を身につけるといふことに取組んでいきたいと提案している。

ここには記載していないが、今後、小中連携教育のリーフレットを作成して、保護者の方や委員方にもお配りしていく。依然、メディア接触が止まらないため、特集を組もうかと思っている。今のプランでは、中学校区5校区の実践をメディアにして載せる。それから生活習慣について1項目、あとの3項目は学習に関する事、ふるさと教育に関する事、不適応に関する事、この3つについては少しずつ紹介をしていく。メディアについて、保護者の方にしっかりアピールしていこうと思っており、作成するリーフレットには満遍なく盛り込むのではなく、重点的なかたちで取り上げようと思っている。完成次第、3月の終わり頃になるかと思うが、リーフレットを委員方にもお渡しする。

2ページ以降のところは、ネット依存の予防・対応策ということで記事が出ていたため、校長先生方、若い先生方に読んでいただきたいと思い、情報提供として紹介している。

5ページの四角の枠の中の「おわりに」の部分で、非常に説得力のある言葉があるので載せている。「ネットやゲームは子

どもたちにとってとても魅力的なツールで、そもそもハマるようになってきている。」とある。それは当然で、そうでなければ売れない。手にした段階で、ここは覚悟しなければならない。この部分は、リーフレットの文章の中にも入れ込んでいるが、誰が悪いということではなく、どの様に付き合っていくのか家族の中で考えて、約束を決めないといけないと紹介させていただいた。

続いて5ページの2番目、浜田市独自の児童生徒質問紙を実施した。全国学力調査が中止になって意識調査から結果がみられない。県学力調査の中から今まで浜田市が追跡調査をしてきた項目は全てなくなっていたということがあったため、校長会で了解を得て、今まで追跡調査をしていた独自の調査をさせていただき、集計を行った。この調査結果については、2ページめくっていただいて資料Bをご覧ください、平成26年から本年度までの数値を載せている。これについては、質問項目等も見ていただきたい。

5ページに戻っていただき、今回の調査で特徴的なことであるが、中学校において全ての項目が平成26年度以降の最高値となっており、全て良い方向に転じていた。それから学級やグループでの話し合いなどの活動で、主体的で対話的で深い学びに関する質問項目が中学校については昨年度と比較して21.8ポイントも向上している。話し合う活動をよく行っているのでポイントも高くなっていた。

6ページをご覧ください、それに反して小学校は昨年度と比較して「学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」が10.3ポイント向上しているが、それ以外の項目は全て昨年度と比較したらマイナスになっている。小学校はもっと授業改善をしなければならないと思う。

もう1つ小学校で特徴的であった結果は、全て私が集計を行って気づいたことであるが、2クラスある学校で、学級によって歴然とした差が出ていることに驚いた。要するに中学校と違って学級担任制であるため、担任の先生の指導方法によって同じ学年でも差が出ている。そういった傾向が出ているため、気を付けなくてはならない。いわゆる組織的な取組が行われていないということである。中学校ではこういった傾向は見受けら

れなかった。小学校と数値を比べてみると、中学校の方が小学校に近づいた。若干、中学校の方が小学校より上回った。延べで見ると、小学校と中学校の差がなくなっている。

もう1つ特徴的なところは、中学校がなぜこんなに伸びたのかと色々と考えたら、今年度は、協調学習の授業をどのくらい取り入れているかということをも東大に報告する関係で調査した。そのデータを見ながら協調学習に比較的に取り組んでいる学校とそうでない学校と比較してみたら、設問によっては取り組んでいる学校とそうでない学校とでは20ポイント程度の差が出ている項目もあった。協調学習の取組で力が付いたという訳ではないと思うが、子どもたちにとって主体的・対話的な学びについて実感を得やすい手法が協調学習にはあると明らかに言えるのではないかと集計をしながら思った。このデータについては、比較できる資料を付けているため、またご覧いただきたいと思う。今回の調査では、4段階評価のうち1番良い評価「当てはまる」と肯定的な評価をした子どもたちではない。肯定的な評価の中でも、言い切った子どもを追跡調査している。肯定的な評価を含めると高い数値が出てくるが、曖昧な「やや当てはまる」と回答した子どもたちが、はっきり自信を持って「当てはまる」と言い切れる様な取組を今後も継続していきたいと思っている。

6 ページの中段のところをご覧いただき、授業改善の方向性について意見交換をする中で、「もっと分かりやすい言葉はないか」と教育長から意見があり、色々と話をした結果、来年度からは、「子どもの声でつくる授業」というキャッチフレーズで進めていきたいと思っている。

少人数学級編制基準の見直しについて(資料13)

新聞等でも報道があったため、既にご承知であると思うが、資料の表の1をご覧いただき、変更後の島根県学級編制基準である。黒の太字のところは、国が年度ごとに35人にしていくとっている部分である。ただ、令和3年度に国は小学校2年生を35人にしていくが、島根県は32人にすると言っている。この学級編制基準でみていくと表の2をご覧いただき、影響のある学年は小学校2年生と中学校3年生である。それぞれ1学級ずつということで、編制の見直しをする浜田市への影響は比

村木課長

較的少なくて済むという見通しが今のところについてはついている。簡単であるが以上である。

三浦龍司選手 初めての箱根駅伝出場(資料 14)

令和 3 年 1 月 2 日、3 日に開催された箱根駅伝に三浦龍司選手が出場し、1 区を走った。自分の力を出し切れず区間 10 位でタスキをつないだ。なお、三浦選手の専門である 3000m 障害で、令和 3 年 6 月 29 日までの大会でオリンピック参加標準記録をクリアし、出場条件を満たせばオリンピック出場の可能性がある。引続き、生涯学習課としても応援していきたいと考えている。

年末年始のサン・ビレッジ浜田アイススケート場利用者数について(資料 15)

後ほど協議会でもご相談させていただきたいと思っているが、新型コロナウイルスの関係もあり、どうしても伸び悩んでいる。特にオープン日である 11 月 21 日から 1 月 11 日までは、前年より 1,216 名の減である。特に大会等が開催されないという状況もあって、この様な状況であることを報告させていただく。

第 24 回島根県立石見武道館少年柔道大会の結果について(資料 16)

東公園に石見武道館が建設されてから、これまでずっと大会が行われている。特に今年度については、参加者を小学校 6 年生に限定とした大会となった。例年、250 名ぐらいの参加があったが、今年は 29 名の参加で大会が行われた。新型コロナウイルス対策を十分に施しながら大会が終わっている。

「アクアみすみ」寒波による臨時休業について(資料 17)

先ほど、教育総務課長より学校での被害報告があったが、実はスポーツ施設も被害があった。1 月 9 日、10 日の 2 日間を臨時休館している。アクアみすみが開館以来、初めてのことである。

休館の理由としては、プールの水温が上がらず規定である水温 31 度に達しないためであった。故障ではないかと色々と調

べたが、結果的には低温による機器の機能低下と確認された。1月12日には徐々に水温が上がり、寒波が過ぎたら水温が31度になった。

周知方法としては、ケーブルテレビ及びホームページ、SNS、個別電話対応を行い、特に大きなトラブルはなかったと聞いている。

浜田市旭図書館の開館について（資料18）

定例会の後にご案内させていただくが、予定どおり1月5日に開館している。

利用状況については、開館初日の来館者数をみると多くの方々にご利用いただいている。

裏面をご覧ください、旭支所の正面にある旭センターに旧旭図書館があったが、お別れイベントとして12月27日に佐々岡健次さんをお招きして、一緒に壁に絵を描くイベントを行い、19名の方が参加された。佐々岡さんをご存じのとおり、「ゲゲゲの鬼太郎」の漫画家、水木しげるのアシスタントをされた方で本物の絵が旭センター内にある。ただ、残念ながら保安上の関係で鍵を閉めているため、実は絵を見ることができない。最終的には解体されてしまうが、佐々岡さんも了解の上でのイベントであった。

雑誌スポンサー制度の状況について（市立図書館）（資料19）

この教育委員会においても色々ご指摘等もあり、この度、図書館協議会を経て宇谷館長が営業に回り、現在23件の雑誌スポンサーを得ている。さらに、進めていきたいということで、この制度を活かした取組を今後も進めていく。

協働のまちづくりオンライン市民集会の開催について（追加資料）

先ほどの資料4のところで、2月11日（木）協働のまちづくりオンライン市民集会のご案内を委員方に行っている。場所については、浜田市役所本庁、各支所、公民館をオンラインでつないで実施するものである。委員方におかれましては、市役所4階講堂にお越しいただき、メイン会場のご案内している。この市民集会は2部構成としており、1部では協働のまちづくり推

進条例及びまちづくりセンターについて、市長が約 20 分間説明を行い、その後、質疑応答を本庁舎又は支所で行う。公民館と自宅については YouTube で配信するため、一方通行になるが、本庁と支所とでは双方向で話ができる環境で進めている。

第 2 部では、社会教育を基盤とした協働のまちづくりについてということで、40 分間のうち前半の 20 分間を生涯学習課からこれまで公民館で取り組んできた社会教育や生涯学習の成果等を振り返り、協働のまちづくりにどの様に繋がっていくのかといった話をさせていただき、残りの 20 分間は社会教育アドバイザーである長畑先生が、まちづくりセンターの職員にメールを送るかたちで話をされる。

主催は浜田市と浜田市教育委員会、共催は浜田市公民館連絡協議会ということで、三者一体となって協働のまちづくりの実現に向けたオンライン市民研修会を行うため、ご参加いただければと思う。よろしく願います。

濱見課長

第 24 回浜田こどもアンデパンダン展

船で運ばれた人形たち～長浜人形のひなまつり～(資料 20)

芸術文化施設での企画展のご案内である。こども美術館で毎年開催している「アンデパンダン展」を今年も開催する。浜田市の子どもたちの作品、それから海外から寄せられた作品を展示する企画展である。今年は新型コロナウイルスの関係で海外の作品が非常に少なくなってしまったが、過去に寄贈いただいた作品も併せて展示している。直前まで開催していた企画展等は、新型コロナウイルスの関係で予約制にしていたが、今回については 4 階と 5 階の展示室を使ってご覧いただけるようにしたので、予約なしで入館できる。場合によっては入場制限をする可能性はあるが、順次ご覧いただけるようにしている。

続いて、浜田市浜田城資料館の企画展のご案内である。2 月 13 日から新しい企画展が始まる。北前船で運ばれた長浜人形の展示を行う。ひな壇を作って、ひなまつり風に魅せてみるということをしてみようと思っている。2 月 13 日から 5 月 9 日のゴールデンウィーク明けまで開催する予定である。

石本教育長

以上、資料 3 から資料 20 まで、たくさんの報告があった。その他資料のないところで各課長から報告事項はあるか。

各課長

特になし。

石本教育長	それでは委員方から質問等あればお願いします。
	質疑応答
石本教育長	2月11日の協働のまちづくりオンライン市民集会は、本日委員方の出欠をとるか。
村木課長	そうである。
金本委員	事前申込不要とは記載があるが。
村木課長	席をご用意するため、出欠をとりたいと思う。
石本教育長	出欠はいかがか。
花田委員	私は都合がつかないので欠席する。
金本委員	出席する。
宇津委員	出席する。
杉野本委員	出席する。
石本教育長	承知した。ありがとうございます。
	その他はよろしいか。
各委員	特になし。

4 その他

(1) その他

石本教育長	事務局からその他何かあるか。
各課長	特になし。
石本教育長	委員方からご報告やご質問があればお願いします。
各委員	特になし。

次回定例会日程

定例会 2月19日(金) 13時30分から 北分庁舎2階会議室

次々回定例会日程

定例会 3月19日(金) 13時30分から 北分庁舎2階会議室

15:33 終了